

C-41 帯製作上の表地と芯地の釣合い

相模女子大学 芸

永井 房子

【目的】近年、繊維科学のめざましい発達や、衣生活の多様化にともない、細帯や軽装帯に服地を使用する傾向が多く見られるようになった。そこで服地を表地に利用した場合の芯との釣合いについて検討した。

【方法】実験材料：表地にポリエステル、木綿、レーヨン、アセテート、（いずれも100%）、綿・ポリエステル混紡の5種類。帯芯に不織布芯、三河木綿厚地、同薄地の3種類。実験項目：①、表地と芯地の釣合いについての物性。②、シンプルモデルによる官能検査。

【結果】①の結果。イ).表地及び芯地の伸長性測定（クリーブ率）。伸びの小さい順序。表地：綿・ポリエステル混紡＜アセテート＜レーヨン＜木綿＜ポリエステル。

芯地：三河木綿厚地＜同薄地＜不織布芯。ロ).表地及び芯地の硬さ測定（ヤング率）。硬い順序。表地：綿・ポリエステル混紡＞アセテート＞レーヨン＞木綿＞ポリエステル。芯地：三河木綿薄地＞同厚地＞不織布芯。

②の結果。イ).縫製直後：ポリエステル、木綿、レーヨン、アセテート表地は、不織布芯で芯の長さが表の長さと同じものが良好であった。ロ).胴に巻いて荷重をかけた直後：ポリエステル、木綿表地は芯の長さが表の長さより1%長い、いずれの芯との組合せにおいても良好であった。レーヨン、綿・ポリエステル混紡表地は芯の長さが表と同じいずれの芯との組合せにおいても良好であった。アセテート表地は不織布芯及び三河木綿薄地で芯の長さが表の長さと同じものが良好であった。